

# 第42回

## 名作『さとうきび畑』の擬音 「ざわわ」が生まれた日

私が中学生の頃、お気に入りの音楽クイズ番組にNHKの『シャープさん・フラットさん』がありました。

「#さん」「bさん」と名づけられた視聴者解答者に生演奏や録音済みの音楽を聴かせて、曲名を当てさせる

という内容なのですが、正解を出す

と、5×5で25マスある電光掲示板に#かb、自分のマークを入れてゆ

き「5マス並べば勝ち」という、五

目並べを加味したような趣向でした。

『シャープさん・フラットさん』で

レギュラーとして生の演奏を聴かせて

てくれたのは「寺島尚彦とリズムシ

ヤンソネット」というグループで、

名前のとおりシャヤンソンの伴奏を得

意とし、人気シャヤンソンの歌手、石井

好子のバックバンドとしての役割が

普段の仕事でした。

石井が「とてもきれいな音色だった」と評したリーダー寺島のピアノ演奏ですが、寺島にはシャヤンソンの

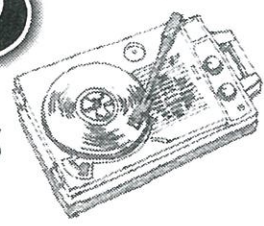
の洞察力には非凡なものがあつたのでしよう。

昭和5年生まれの寺島は、開成中

### 名曲カルテ

# 昭和歌謡と いままで

堀井六郎  
絵・松本 浦



在籍時に東京大空襲を体験します。戦後は海外文学に傾倒、また自ら綴った詩は何冊にもなり、曲をつけ献呈した人は少なくなかったようです。東京芸大に進んだ寺島の師となったのは池内友次郎。俳人・高浜虚子の次男でもあり、池内が詩心豊かな音楽家であったことは、寺島の人生に大きな影響を及ぼしたはずで

す。昭和39年6月、寺島は石井好子のリサイタル伴奏のため、沖繩に同行します。ライブの翌日、沖繩の戦地を巡るうちに、寺島は気がつくとい分の背丈より高く伸びているサトウキビ畑の中で、「この土の下にたくさん

の戦没者が埋まったままになっている」という声なき声を意識しま

す。その瞬間、美しい景色は一瞬にしてモノクロームと化したそうです。そのときの葉を揺らす風の音を寺島が表現できたのは、それから2年後のことでした。「ざわざわ」ではきれいな音で、「ざわざわ」ではうるさすぎる、といった試行錯誤を経て、「ざわわ」というこれ以上ない見事な擬音が生み出されます。寺島尚彦

作詞作曲による、名作『さとうきび畑』の誕生でした。初演は石井好子の門下生、田代美代子が歌いましたが、やがて自宅近くに住んでいた森山良子に寺島自らがレコーディングを依頼、少しずつ歌が知られるようになっていく過程は、寺島が編曲し、妻となる女性がリーダーだったヴォーチェ・アンジェリカが歌った『忘れな草をあなたに』と似ています。平成7年、65歳になった寺島は、あの日から31年ぶりに沖繩を訪れることになりました。沖繩戦終結50周年ということで平和祈念公園内に建設された「平和の礎」を歩いていたとき、あの時と同じ風が吹いたのでしょ

ほりい・るくるう 昭和27年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後は25年にわたる出版社勤務を経て独立。現在は出版社経営の他、ライターとしても活躍。「私の『昭和大衆歌謡考』第4集 しあわせになるうね」(グスコー出版)が好評発売中